

ジェネリック医薬品使用促進緊急対策について

ジェネリック医薬品使用促進緊急対策について

○ ジェネリック医薬品については、骨太の方針2017において、令和2年9月までに後発医薬品の使用割合を80%とし、できる限り早い時期に達成すると閣議決定された。

○ しかしながら、平成31年1月以降、ジェネリック医薬品の使用割合の伸びが低迷しており(図1)、目標の使用割合80%の達成が困難となる見込みであったことから、令和2年2月4日に本部においてプレスリリース(P4～P8)を実施し、「ジェネリック医薬品使用促進緊急対策」として、以下の取組を実施することとした。

I. 加入者等への働きかけ

1. ジェネリック医薬品軽減額通知サービスの対象年齢引き下げ
2. 本部及び全支部におけるプレスリリースによる情報発信

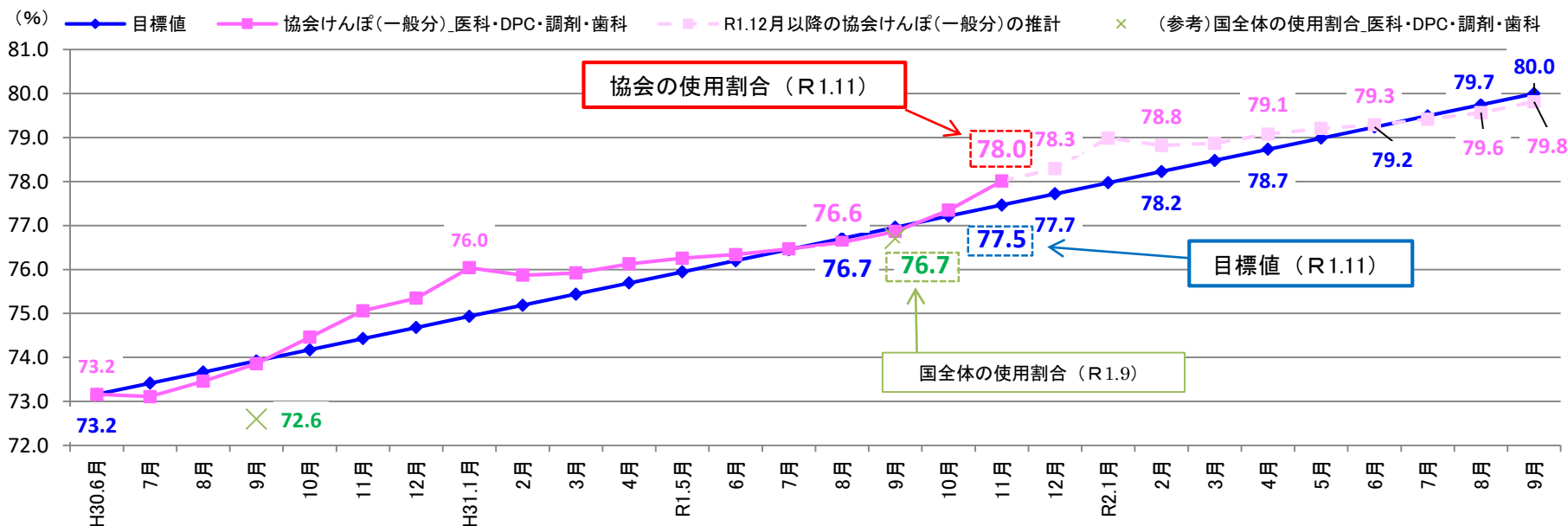
II. 医療機関及び保険薬局への働きかけ

3. 見える化ツール等を活用した医療機関等への訪問による情報提供の強化

III. 支部全体の取組強化

4. 支部担当者向け研修会による各種ツールの活用方法及び好事例の共有
5. 重点地域(東京、神奈川、山梨、愛知、京都、大阪、広島、徳島、高知、福岡)の取組支援

《図1:平成30年6月以降のジェネリック医薬品の使用割合の現状》



※「R1.12月以降の協会けんぽ(一般分)の推計」は、各月において、前月の推計値(R1.11は実績値)に前年度における対前月差を加えたものとして算出している。

緊急対策の取組

< I. 加入者等への働きかけ >

1. ジェネリック医薬品軽減額通知サービスの対象年齢引き下げ

- ジェネリック医薬品使用促進の課題として、0～19歳の方の使用割合が低い。
- 厚生労働省の調査によると、約7割の自治体が15歳年度末に乳幼児等医療費助成が終了するため、15歳以上の加入者は切替につながりやすいと考え、令和2年2月に発送するジェネリック医薬品軽減額通知について、18歳以上から15歳以上に対象年齢の引き下げを行った。なお、対象年齢の引き下げによる通知書の増加件数は90,203件となった。

《直近の軽減額通知サービスに係る対象条件の概要》

実施年度	平成29年度		平成30年度		令和元年度	
発送月	8月	2月	8月	2月	8月	2月
対象年齢	20歳以上				18歳以上	15歳以上
医科金額	600円以上				500円以上	
調剤金額	50円以上					

2. 本部及び支部におけるプレスリリースによる情報発信

- 令和2年2月4日、本部において、ジェネリック医薬品使用促進緊急対策に関するプレスリリースを実施し、日本経済新聞(2月4日朝刊)に記事が掲載された。
- 支部におけるプレスリリースは、2月21日時点で25支部で実施しており、そのうち7支部のプレスリリースがメディアに取り上げられ、計10紙で掲載された。令和2年4月までにすべての支部で実施する予定。

<Ⅱ. 医療機関及び保険薬局への働きかけ>

3. 見える化ツール等を活用した医療機関等への訪問による情報提供の強化

○ これまで、個別の医療機関・保険薬局に対して、主に郵送で見える化ツールを情報提供してきたが、令和2年1月からは訪問による情報提供を強化した。

※ 見える化ツールとは、個別の医療機関・保険薬局におけるジェネリック医薬品の処方(調剤)割合、地域における医療機関(保険薬局)の処方(調剤)割合の立ち位置、医療機関(保険薬局)におけるジェネリック医薬品数量割合向上に寄与する上位10医薬品などを見える化したもの。詳細はP7～P8を参照。

※ 新型コロナウイルス感染症への対策として、2月28日から当面の間、医療機関及び薬局への訪問を見合わせており、今後、状況に応じて、積極的な情報提供を再開することとしている。

<Ⅲ. 支部全体の取組強化>

4. 支部担当者向け研修会による各種ツールの活用方法及び好事例の共有

○ 医療機関等への訪問による情報提供の取組を支援するため、2月14日に「ジェネリック医薬品使用促進研修会」を実施し、ジェネリックカルテをはじめとする各種ツールの活用方法を再確認し、医療機関への訪問をすでに実施した支部からの事例共有を実施した。

5. 重点地域(東京、神奈川、山梨、愛知、京都、大阪、広島、徳島、高知、福岡)の取組支援

○ 重点地域の支部において、令和2年9月までの実施計画書を作成。

○ 令和2年2月から3月にかけて本部、委託業者であるニッセイ情報テクノロジー(株)及び日本ジェネリック製薬協会が支部を訪問し、実施計画書や本部の分析データに基づき、計2か所(東京、神奈川、山梨、福岡の4支部)にて合同の意見交換会を実施した。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、愛知、京都、大阪、広島、徳島、高知は延期としており、実施日は未定。

○ その後、9月までの間、毎月進捗状況を確認のうえ、本部においてフォローを実施することで取組の支援を図っていきたい。

参考：令和2年2月4日に実施したプレスリリース



Press Release

令和2年2月4日

報道関係者 各位

(報道機関照会先)
本部 企画部長 榎本 芳人
企画グループ長 森 朝哉
電話直通 03-5212-8215

令和2年2月からジェネリック医薬品使用促進に向けた取組を強化します。
～令和2年9月の使用割合の目標80%に向けた緊急対策～

令和2年2月から緊急対策として、平成29年6月に閣議決定された目標の使用割合80%に向けて、①ジェネリック医薬品軽減額通知サービス（以下「軽減額通知」という。）の対象者の拡大、②厚生労働省が定めた重点地域（※1）を中心とした医療機関・保険薬局への訪問強化等を実施します。

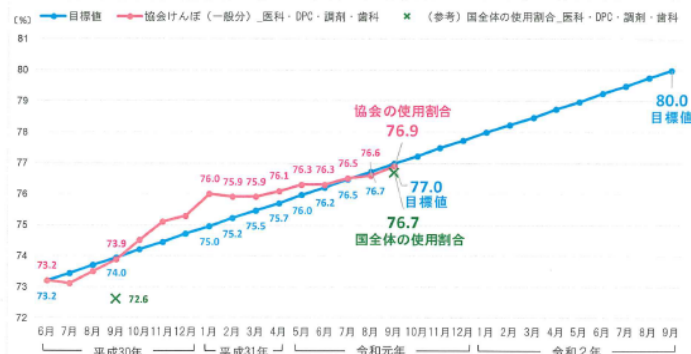
＜1. 緊急対策を行う背景＞

使用割合の伸び悩み。診療所（院内）、大学病院、0～19歳が特に低い。

協会けんぽにおけるジェネリック医薬品の使用割合は、平成31年（2019年）1月診療分は76.0%、令和元年（2019年）9月診療分は76.9%と、月平均伸び幅が約0.1%と低迷しており、目標の使用割合80%の達成が困難となる見込みです。（図1参照）

加えて、協会けんぽのレセプト分析から、設置主体別では診療所（院内）や大学病院の使用割合が低く、年齢別では0～19歳が低いなどの課題が明らかになっています。（詳細は参考資料1参照）

〔図1：平成30年6月以降のジェネリック医薬品の使用割合の現状〕



参考：令和2年2月4日に実施したプレスリリース

参考資料 2

ジェネリック医薬品軽減額通知サービスとは

ジェネリック医薬品軽減額通知サービスとは、お薬代の負担の軽減につながる「ジェネリック医薬品」の普及の推進のため、処方された新薬（先発医薬品）をジェネリック医薬品（後発医薬品）に切替えた場合に、お薬代の自己負担額がどのくらい軽減されるかを試算したお知らせを、一定額以上お安くなる方へお送りするものです。

このサービスは、平成 21 年度から実施しており、平成 30（2018）年度の通知件数は約 670 万件、切替約 186 万件で切替率は約 27.7%でした。軽減効果額は一か月で約 27.5 億円、年間推計すると約 330 億円となります。

参考：令和元年8月通知分の見本

見本

ジェネリック医薬品をお使いいただくと
お薬のお薬代を減らすことができます

1 平成31年 4月 1日処方されたお薬のうち、
以下の医薬品はジェネリック医薬品に切替えることができます

処方された医薬品	お薬代 （1回分）	ジェネリック医薬品 （1回分）	軽減効果額 （1回分）
オメプラール錠 10mg	5,000円	オメプラール錠 10mg	5,000円
オメプラール錠 10mg	1,000円	オメプラール錠 10mg	1,000円
オメプラール錠 10mg	800円	オメプラール錠 10mg	800円
オメプラール錠 10mg	2,000円	オメプラール錠 10mg	2,000円
オメプラール錠 10mg	1,000円	オメプラール錠 10mg	1,000円
合計	10,800円	5,500円	5,300円

2 軽減効果額は、お薬代の負担を軽減するための目安です。お薬代の負担は、お薬代の負担額と軽減効果額との差額となります。

3 軽減効果額は、お薬代の負担を軽減するための目安です。お薬代の負担は、お薬代の負担額と軽減効果額との差額となります。

4 軽減効果額は、お薬代の負担を軽減するための目安です。お薬代の負担は、お薬代の負担額と軽減効果額との差額となります。

5 軽減効果額は、お薬代の負担を軽減するための目安です。お薬代の負担は、お薬代の負担額と軽減効果額との差額となります。

1 処方年月
この月に処方されたお薬で、軽減可能額の計算を行います。

2 お薬代の軽減可能額
ジェネリック医薬品に切替えることで軽減できる1か月のお薬代の負担です。
※お薬代以外の処方料や診察料は含まれていません。

3 お薬名
軽減できるお薬代が高いものを最大で掲載しています。

4 お薬代
ジェネリック医薬品に切替える前の1か月のお薬代です。
※お薬代の負担額と軽減効果額との差額が、お薬代の負担額となります。

5 注意事項

Q. 具体的なジェネリック医薬品の
名前が書いていないのはなぜ？

A. 1つの先発医薬品に対し、複数のジェネリック
医薬品が存在する場合があります。この「お知らせ」
には具体的なジェネリック医薬品名を記載していません。
具体的なお薬名については、かかりつけの医療機関または
薬局でご確認ください。

ジェネリック医薬品軽減額通知サービスの軽減効果額等一覧

年度	通知対象条件	コスト	通知件数	軽減効果 人数 (切替率)	軽減額／月	軽減額／年（※１）	
21年度	➢ 40歳以上の加入者 ➢ 軽減効果額200円以上	約7.5億円	約145万件	約38万人 (26.2%)	約5.8億円	約69.6億円	
22年度	➢ 35歳以上の加入者 ➢ 軽減効果額300円以上 ➢ 21年度通知者は対象外	約4.7億円	約55万件	約11万人 (21.5%)	約1.4億円	約16.8億円	
23年度	➢ 35歳以上の加入者 ➢ 軽減効果額300円以上 ➢ 22年度通知者は対象外	約5.0億円	【1回目】 約84万件	約20万人 (23.3%)	約2.5億円	約30.0億円	合計 約39.3億円
			【2回目】 約21万件	約5万人 (25.4%)	約0.8億円	約9.3億円	
24年度	➢ 35歳以上の加入者 ➢ 軽減効果額は医科400円以上、 調剤200円（2回目は400円） 以上 ➢ 23年度通知者は対象外	約4.8億円	【1回目】 約96万件	約24万人 (25.1%)	約3.1億円	約37.2億円	合計 約48.0億円
			【2回目】 約27万件	約7万人 (24.9%)	約0.9億円	約10.8億円	
25年度	➢ 35歳以上の加入者 ➢ 軽減効果額は医科400円以上、 調剤250円（2回目は400 円）以上	約2.4億円	【1回目】 約134万件	約32万人 (24.0%)	約4.4億円	約52.8億円	合計 約83.1億円
			【2回目】 約50万件	約15万人 (29.0%)	約2.5億円	約30.3億円	
26年度	➢ 35歳以上の加入者 ➢ 軽減効果額は医科600円以上、 調剤150円以上	約3.9億円	【1回目】 約166万件	約46万人 (28.0%)	約7.0億円	約84.3億円	合計 約157.7億円
			【2回目】 約163万件	約42万人 (25.7%)	約6.1億円	約73.4億円	
27年度	➢ 35歳以上の加入者 ➢ 軽減効果額は医科600円以上、 調剤100円以上	約4.0億円	【1回目】 約181万件	約51万人 (28.1%)	約7.3億円	約87.2億円	合計 約188.5億円
			【2回目】 約194万件	約56万人 (29.0%)	約8.4億円	約101.3億円	
28年度	➢ 20歳以上の加入者 ➢ 軽減効果額は医科600円以上、 調剤100円（2回目は50円） 以上 ➢ 対象診療月は従来の1ヶ月分か ら2ヶ月分に拡大	約6.2億円	【1回目】 約307万件	約78万人 (25.3%)	約11.3億円	約136.0億円	合計 約270.0億円
			【2回目】 約303万件	約76万人 (25.3%)	約11.2億円	約134.1億円	
29年度	➢ 20歳以上の加入者 ➢ 軽減効果額は医科600円以上、 調剤50円以上 ➢ 対象診療月は2ヶ月分	約7.7億円	【1回目】 約358万件	約98万人 (27.4%)	約15.6億円	約187.0億円	合計 約435.6億円
			【2回目】 約345万件	約117万人 (33.8%)	約20.7億円	約248.7億円	
30年度	➢ 20歳以上の加入者 ➢ 軽減効果額は医科600円以上、 調剤50円以上 ➢ 対象診療月は3ヶ月分	約7.0億円	【1回目】 約371万件	約101万人 (27.2%)	約14.6億円	約175.2億円	合計 約330.0億円
			【2回目】 約298万件	約85万人 (28.5%)	約12.9億円	約154.8億円	
合計		約53.2億円	約3,298万件	約902万人 (27.3%)	約136.5億円	約1,638.6億円	

※1 軽減額（月）×12ヶ月（単純推計）

参考：令和2年2月4日に実施したプレスリリース

参考資料 3

医療機関・薬局をサポートするための情報提供ツール

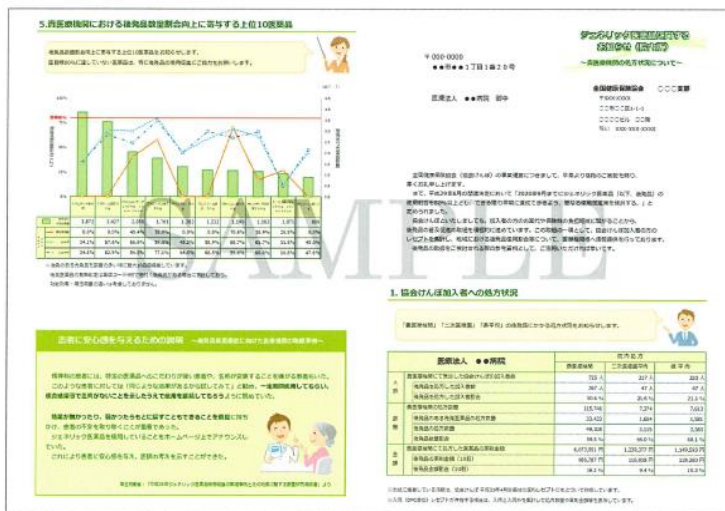
医療機関・保険薬局向けに、ジェネリック医薬品の処方（調剤）割合、地域における医療機関（保険薬局）の処方（調剤）割合の立ち位置、医療機関（保険薬局）におけるジェネリック医薬品数量割合向上に寄与する上位 10 医薬品など、個別の医療機関・保険薬局の情報を掲載したツールを作成しています。

医療機関・保険薬局への情報提供を平成28年度より実施しており、令和元年度においては、医療機関への訪問163件、保険薬局への訪問を134件実施しております。（令和元年12月末時点）医療機関や保険薬局からは、「思ったより利用割合が低かった。今後のジェネリック医薬品を採用する参考としたい」、「院内で協議し処方せんの「ジェネリック変更不可」へのチェックをしない方針としたい」といったお声を頂戴しております。

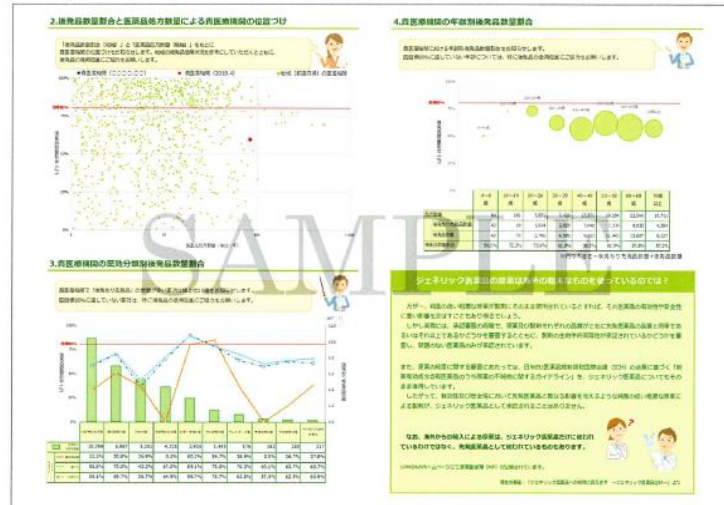
加えて、協会けんぽ加入者の対象月に係るレセプトを活用し、医療機関・保険薬局のジェネリック医薬品の採用を支援するため、都道府県ごとの医薬品の処方実績を見える化した「医薬品実績リスト」も情報提供をいたします。

参考：「ジェネリック医薬品に関するお知らせ（院内版）」の見本

(表面)

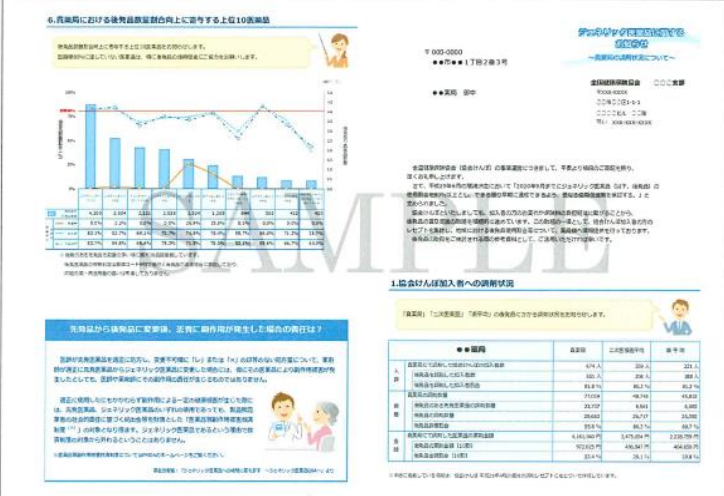


(裏面)



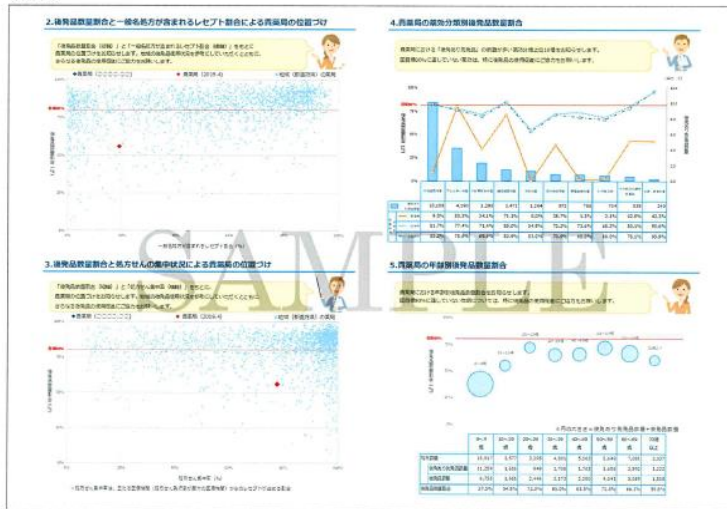
参考：「ジェネリック医薬品に関するお知らせ～貴薬局の調剤状況について～」の見本

(表面)



参考：令和2年2月4日に実施したプレスリリース

(裏面)



参考：「医薬品実績リスト」の見本

品名	No.	原薬名	メーカー	商品登録番号	商品コード	一般名及び 原料名記載	原価	標準	品質	原価率	生産数	原価率
ア	1	先発 アナスタズ錠 5mg	片頭痛	21403010201			48.3	35,873.0	77	325	894	10%
	1	後発 アナスタズ錠 5mg (19年イ)	片頭痛	21403010209	234	カルバマゼピン錠 10mg	19.3	233.75	90	766	2,616	84%
		後発 アナスタズ錠 5mg (19年ロ)	片頭痛	21403010210		19.3	30.855	107	583	84%		
	2	先発 アナスタズ錠 5mg	片頭痛	21403010202	234	カルバマゼピン錠 20mg	~19.3	50,803.2	42	268	994	
		後発 アナスタズ錠 5mg (19年イ)	片頭痛	21403010209		22.6	33,664	65	201	275	13%	
	2	後発 アナスタズ錠 5mg (19年ロ)	片頭痛	21403010210	234	カルバマゼピン錠 20mg	9.9	126,722	60	151	1,428	81%
		後発 アナスタズ錠 5mg (19年ハ)	片頭痛	21403010216		9.9	23,885	12	85	275	81%	
	3	先発 アミダマシ錠 50mg	大脳血管障害	24914030106	234	イルベプロクテン・アルロピジン 10mg錠剤	132.6	35,160.56	56	258	693	23%
		後発 アミダマシ錠 50mg (19年イ)	大脳血管障害	24914030134		53.1	59,925	21	321	1,269		
		後発 アミダマシ錠 50mg (19年ロ)	大脳血管障害	24914030135		53.1	34,344	21	321	1,269		
		後発 アミダマシ錠 50mg (19年ハ)	大脳血管障害	24914030136		~53.1	34,344	22	244	244		
	4	先発 アミダマシ錠 50mg	大脳血管障害	24914030106	234	イルベプロクテン・アルロピジン 5.0mg錠剤	115.8	22,170	48	199	898	27%
後発 アミダマシ錠 50mg (19年イ)		大脳血管障害	24914030134	46.5		6,066	—	95	250	73%		
イ	1	先発 シンリンパリン錠 10mg	片頭痛	21404010107			11.0	9,900	—	35	81	
	1	後発 シンリンパリン錠 10mg (19年イ)	片頭痛	21404010110	234	シンリンパリン錠 10mg	11.0	2,425	—	32	47	56%
		後発 シンリンパリン錠 10mg (19年ロ)	片頭痛	21404010111		11.0	2,425	—	32	47	56%	
	2	先発 シンリンパリン錠 10mg (19年イ)	片頭痛	21404010107	234	ペナルシリン錠 40mg	~12.5	380	—	23	46	
		後発 シンリンパリン錠 10mg (19年ロ)	片頭痛	21404010110		12.5	380	—	23	46		
	3	先発 ペナルシリン錠 40mg	マイグレンF.D	26730010006	217	ペナルシリン錠 40mg	3.1	58,207	154	209	656	43%
		後発 ペナルシリン錠 40mg (19年イ)	マイグレンF.D	26730010007		6.6	46,294	13	304	955		
	3	後発 ペナルシリン錠 40mg (19年ロ)	マイグレンF.D	26730010012	217	ペナルシリン錠 40mg	6.6	14,826	10	156	328	57%
		後発 ペナルシリン錠 40mg (19年ハ)	マイグレンF.D	26730010013		6.6	34,752	10	48	132		
	4	先発 アミダマシ錠 50mg	大脳血管障害	24914030106	218	アミダマシ錠 1.5g含有錠	8.4	16,756	34	821	3,324	52%
		後発 アミダマシ錠 50mg (19年イ)	大脳血管障害	24914030134		6.1	49,413	16	2,810			
	4	後発 アミダマシ錠 50mg (19年ロ)	大脳血管障害	24914030135	218	アミダマシ錠 1.5g含有錠	6.2	10,886	—	89	475	48%
後発 アミダマシ錠 50mg (19年ハ)		大脳血管障害	24914030136	~6.2		11,251	24	112	57%			
5	先発 2mg錠 2mg 17錠入	片頭痛	21401010115	112	シタリル錠 2mg	5.5	23,567	48	379	306	24%	
	後発 シタリル錠 2mg (19年イ)	片頭痛	21401010117		5.7	37,827	33	185	531			
	後発 シタリル錠 2mg (19年ロ)	片頭痛	21401010118		5.5	22,534	11	167	348	70%		